

市場における獣医検査情報の公開 — 市場レポジトリーとは —

国内のサラブレッドせり市場で「レポジトリー」という言葉が使われだして、8年目になったかと思えます。上場される馬の個体情報を集めておく場所を「レポジトリー (Repository: 貯蔵庫、倉庫)」と言うのですが、そもそもどのようにして出来たものなのでしょう。

レポジトリーについて考える前に、「購入前検査」(Pre-Purchase Examination)という言葉について説明します。

物を買う時にはカタログを見ただけで決めてしまう場合もあれば、実物を見たり触ったりして、さらに食べ物でしたら、試食までして購入を決める事もあります。

サラブレッドを購入する時も、通常は実際の馬を見て、歩かせたり走らせたりし、場合によっては触れたりもして検討をするでしょう。若いサラブレッドの場合は、今現在、腫れや跛行、息づかいの異常のない馬でさえも、競馬にむけて強いトレーニングを実施する事を考えると、心配の種は尽きません。

そこで気に入った馬がいたら、獣医師に見てもらう習慣が、諸外国で行われていました。その際行われる検査を獣医師は「購入前検査」というようになり、その方法等を説明した獣医学専門書も出るようになりました。(写真)

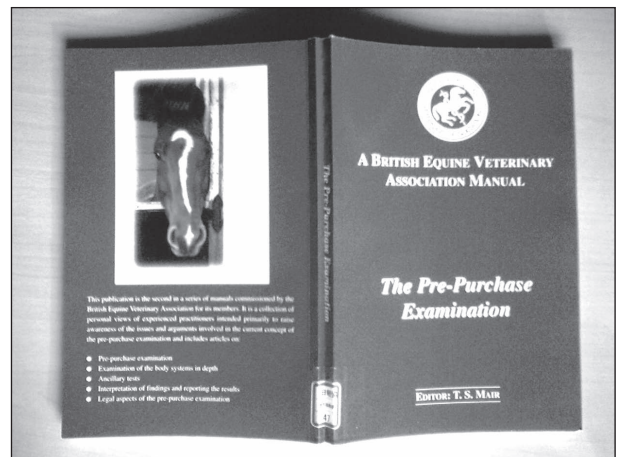
依頼された獣医師は、まず馬を見て目や耳に障害はないか、健康上の問題はないかから検査を始めます。歩様の検査は、曳き運動の常歩、速歩ばかりでなく、調馬索と追い鞭を使って駆歩の検査までもする事もあります。気になる箇所があれば、馬を触ったり、関節の曲げ伸ばしをしたりして疼痛や熱感がないかを調べます。運動直後の心音、呼吸音の聴診も実施します。問題になりそうな箇所については、出来るだけ詳細な検査を実施するようになり、レントゲン検査や内視鏡検査までも実施するようになりました。

そして検査の結果を、依頼主に、競走馬としての将来についてのコメントを加えて報告をし、依

頼者はそれを踏まえて購入の検討をします。

ところで市場レポジトリーの話題に戻ります。市場で馬を購入する場合にも、この購入前検査をしたい人は大勢いるかと思えます。米国等では、高額取引が予想される馬では、上場する事が知られると、繋養牧場には多くの購入希望者が集まり、連日のようにレントゲン撮影や、喉の内視鏡検査を実施した、といった話を聞いたことがあります。そこで牧場関係者は、馬への負担や従事者の多忙を考え、事前にレントゲン撮影や内視鏡検査を済ませておき、購入希望者にはそれを見せていました。一方、市場開設者はその情報(診断書、画像、動画)を、便宜上、市場の一箇所に集めておくようにしたのが、この「レポジトリー」なのだそうです。

そして市場では、情報が提出されていると、上場者にとっても購買者にとっても、より公正な取引ができるようにルールを整え、市場の公正さの水準を高めるようにしています。



英国馬獣医師会編 「購入前検査」

裏表紙の写真の馬の鼻には“?”(サラブレッドの将来性は常にクエスチョン)

日本のレポジトリーが始まってから、JBB Aや市場開設者では、提出されたレントゲン画像を集積し、さらには、その後の競馬成績も分析して、様々な情報が提供できるようになりました。このマンスリーレポートの次回以降は、それらの情報を示していこうと思います。